

展望2022

流通・アフター首脳に聞く

5

電装整備士の技術力向上支援

全国自動車電装部品整備商工組合連合会(電整連)の組合活動が活発化している。特定整備制度の施行を機に自動車電装整備士の二種養成講習会の開催や他の自動車関連団体との関係構築が進展。

「業界内で電整連の認知が高まっている」と、各単組の活発化に期待を示す紫関雅美会長に現状や今後の展望を聞いた。

は堅調だったと言える。た

だ、カーナビゲーションやE

TC車載器を販売する一部の

員では半導体不足など外的要

因で、在庫が薄くなり影響を

受けた。22年に入ってもまだ

電子機器は供給不足が継続し

ているようだ」

全国自動車電装部品整備商工組合連合会

紫関 雅美会長



「2021年の振り返りは「コロナ禍でも整備需要にマイナス影響はなかった。電装整備は交通社会を支える役割があり、メインのサービス

(村上 貴規)

特定整備制度への対応がまだまだ課題だ

「電装整備では電子制御装

置整備の認証がなければ、

(バンパーの脱着作業を伴

う)基本となるエアコンの修

理さえできない時代がくる。

会員各社には確かな技術力がある。電整連として、電装整備士の講習会開催による認証取得の促進や技術講習によるエーミング(機能調整)作業などの技術力向上を支援していく」

「22年度の講習会の開催予定は

「21年度の16単組を上回る開催を目指す。受講者数の関係で、従来は大都市圏でしか開催できていなかった。特定整備の施行以降、需要が高ま

り、過去から未開催だった北海道や四国の単組も開催に名乗りを上げている。会員各社の関係がどう生きてくるのか

「整備技術が高度化するのと、すべてを工場ですべての作業が難しくなる。『餅は餅屋』の発想として専門化が進み、それぞれの地域でネットワークを組み、車社会の安心と安全を担保する形になるだろう。会員各社は電気や電子、通信などお役に立てる領域がある。その輪に会員各社が加わるために、連携で電整連の認知を高めることが生きてくる」

「今後の展望は「はつきりと見通すことは難しい。ただ、電装整備業界は5年前には想像していなかったドライブレコーダーの需

講習会通じ他団体と関係構築

要の高まりに現状はしっかりと対応できている。電気自動車(EV)や電子制御による自動運転、コネクテッドカーが当たり前の時代になったとしても、もちろん努力は必要となるが、対応できると信じている。電整連の賛助会員には部品メーカーやバッテリーメーカーが加盟しており、最新情報の取得や講習を受講することもできる。こうしたバックアップ体制で自動車の変化に対応していきたい」

〈プロフィール〉しせき・まさみ 横浜市立大学商学部卒。松下電器産業(現パナソニック)を経て、1991年中村電機商会入社、2004年から社長。09年愛知県自動車電装部品整備商工組合理事。12年全国自動車電装部品整備商工組合連合会副会長、14年から現職。1951年9月生まれ、70歳。埼玉県出身。